●本カタログに記載の社名・製品名等は、各社の商標または登録商標です。
●本カタログに印刷された商品の色調は、実際の商品と多少異なる場合があります。

【使用に関するお願い】
●実際に商品をご使用になる前に、取扱説明書に記載されている使用上の注意及び危険防止に関する注意事項をよくお読みくださいますようお願い申しあげます。

【保証書に関するお願い】
●保証書が添付されている商品については、店名、ご購入期日の記載を確認の上、大切に保存してください。システム一括購入の場合は、契約時に保証書の扱いについて販売店と必ずご相談ください。

【その他付記事項】
●仕様、外観および価格などは改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

このカタログについてのお問い合わせは下記にご相談ください。

お客様お問い合わせ窓口
プロオーディオ・インフォメーションセンター
（電話受付＝祝祭日を除く月～金／11:00～19:00）
■ TEL. (03)5791-7678 ■ FAX. (03)5488-6663 ■ ONLINE Support: http://proaudio.yamaha.co.jp

このカタログは
大豆インキで
印刷しております

このカタログは
無塩素漂白（ECF）パルプ
を使用しています

YAMAHA
感 動 を ・ と も に ・ 創 る

ヤマハ株式会社
PA・DMI事業部 MP推進部 マーケティンググループ
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

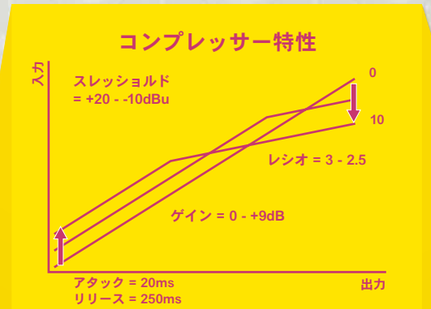
POWERED MIXER

EMX SERIES

EMX5016CF/EMX5014C
EMX512SC/EMX312SC/EMX212S

軽量・コンパクト・高音質をグレードアップし、様々なユーティリティ機能を搭載。進化するEMXシリーズのフラッグシップモデル

EMX5016CFは、定評あるEMXシリーズの最上位機種にあたるオールインワンタイプのパワードミキサーです。16CHミキサー、デジタルエフェクターといったEMXシリーズの基本性能はもちろん、新たにデジタルグラフィックイコライザー、フィードバックサプレッサー、周波数特性補正機能 (FRC) など、ユーティリティやデザインなどを大幅に向上。必要な機能をコンパクトなボディに凝縮し、すべての作業が一元化されたシンプルな操作性は、EMXならではの素早いセッティングが可能です。また軽量化された本体は、ラックマウント (要ラックマウントキット) で可搬性に優れ、幅広い用途に対応します。EMX5016CFは、オールインワンならではの基本性能に加え、EMXシリーズの誇る高音質、新たに追加された機能など、利便性をより向上させたフラッグシップモデルです。



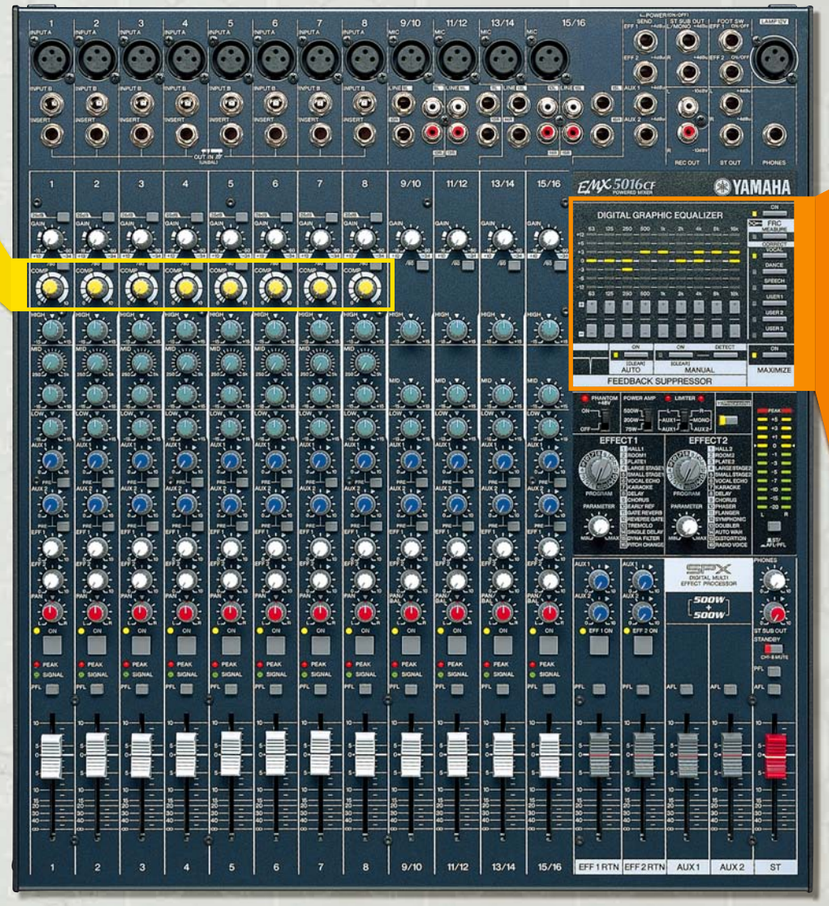
EMX5016CF POWERED MIXER

- 最大12マイク入力、トータル16入力
- 4ステレオ入力
- 500W + 500W (4Ω)
- 入力ゲイントリム
- HPF
- 3バンド・ミッドスイープ・チャンネルEQ
- チャンネルコンプレッサー
- PFL/AFL
- 2AUX
- 2SPXデジタルエフェクト
- フィードバックサプレッサー
- 9バンド・ステレオグラフィックEQ
- FRC（周波数測定/補正）機能
- マルチバンドマキシマイザー
- スタンバイモード
- パワーアンプモードセレクト
- YSプロセッシング
- 軽量設計（11kg）
- ラックマウント可能（12U）

※ RK5014 (別売) が必要です。
※ SPEAKERS端子に接続するコネクター分として本体の12Uに加え2~3U分の余裕が必要です。

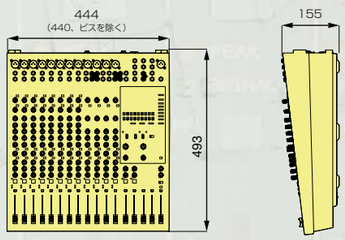
- ランプコネクター

※ 汎用グースネックランプ (別売) が必要です。



寸法図

単位: mm



リアパネル

幅広い用途に対応し、機器同士の接続/設定の手間を大幅に短縮するオールインワンコンセプトの16CHパワードミキサー

ミキサー、パワーアンプ、グラフィックEQ、デジタルエフェクターをコンパクトなボディに凝縮。必要な機器/機能が一台で完結しているため、煩わしい機器間の配線や調整から開放され、素早く簡単に設置/セッティングが行えます。コンパクトなラックサイズながらトータル16系統の入力に最大12系統のマイク入力と4系統のステレオ入力を併装し幅広い用途に対応。外部パワーアンプや外部エフェクトに信号を送出するための出力端子も装備し、サブウファーシステムやモニターシステムへの拡張も可能です。

ハイパワー・高音質と更なる軽量化の両立、実用性・可搬性の高いデザイン

外装に軽量で耐傷性に優れた素材とスイッチング電源の採用により、500W+500Wの高出力パワーアンプを搭載しながらも、急峻な音の立上がりへの優れた追従性や低い歪率に代表される高音質と省電力化を同時に実現。それとともに更なる軽量化 (11kg) までも両立。自社の厳しい品質基準をクリアしたパーツだけを厳選し、たとえば、感度の高いヘッドアンプ回路にはNiCr系薄膜※を抵抗体とした特殊な低雑音チップ抵抗を使用し、透明感かつ豊かな低音のある自然なサウンドを実現。またグランドの取り方にも独自の工夫を施し、電源トランスから発生しやすい低周波ノイズをも徹底的に抑え込むなど、音質への配慮も万全です。ボディの下部には大型キャリングハンドルを装備し、実用性・可搬性ともに大幅に向上しました。

※ 電気抵抗発熱を利用する電熱線材の代表的なニッケルとクロムの合金を利用した薄膜。

新開発のアナログコンプレッサー (1ノブコンプレッサー) を搭載 (8系統)

新開発のFETコンプレッサー回路をモノラルCHすべて (8系統) に装備。コンプレッサーのかかり具合をつまみひとつで調節可能。過大入力を圧縮して信号を歪ませない圧縮効果だけでなく出力レベルも自動的に調整します。音楽的にチューニングされ、全体の音圧を上げることができるため、存在感のあるボーカルやエッジのきいたアコースティックギターの音作りに威力を発揮します。

プリセット/ユーザーメモリーを備えた9バンドステレオデジタルGEQを搭載

EMXシリーズでは初のデジタル9バンドステレオグラフィックEQを装備。ステレオバスの信号の周波数を綿密に調整できます。従来のアナログ同様な操作性はそのままに、63、125、250、500、1k、2k、4k、8k、16kHzの各周波数帯域を12dBまで増幅/減衰可能。さらに3つのプリセット (VOCAL、DANCE、SPEECH) と3つのユーザーメモリーを用意。各イベント/会場に応じて設定をユーザーメモリーに記憶させておけば、最適なセッティングをすばやく呼び出すことが可能です。またFRC機能 (Frequency Response Correction System) を使用し、音場の周波数特性を測定して最適な補正カーブをGEQに設定、メモリーが可能です。

音場の周波数特性を測定し最適な補正カーブを設定するFRC機能 (Frequency Response Correction System)

FRC機能 (Frequency Response Correction System) を使用することで、音場の周波数特性を測定した結果に合わせてその音場に最適な補正カーブをGEQに自動的に設定、メモリーします。MEASUREモードで周波数特性を測定して、CORRECTモードで補正カーブをGEQに設定します。測定方法には2種類あり、EMX本体から出力するピンクノイズによる測定、またはCDプレーヤーなどで再生した楽音による測定があります。

AUTOモード搭載のフィードバックサプレッサー

ステレオL/Rバスの信号のハウリングを検出、防止するノッチフィルター (特定の周波数だけを減衰させるフィルター) を生成。ハウリングを自動検出するAUTOモードと、手動で検出するMANUALモードがあり、それぞれを同時に使用することもできます。フィードバックサプレッサーを利用することにより、不快なハウリングを気にすることなく、パワフルなステージ演出を実現します。

マキシマイザーによる最終出力の音圧調整

3バンドのマルチバンドコンプレッサー、「MAXIMIZE」を搭載。MAXIMIZEをオンにすると、最終出力であるステレオL/Rバスの信号に3バンドのトータルコンプがかかり、全体の音圧レベルを上げることができます。

本格的なミキシングに応える充実のミキサー部

コンパクトなラックサイズに、トータル16CHの充実した入力数を確保。各チャンネルに備えたスムースなフィーリングを持つ60mmフェーダーによる本格的なミキシングが可能です。入力チャンネル1-8 (モノラルチャンネル) にはXLR端子とTRSフォーン端子を併装。またチャンネルEQは、モノラルチャンネルにMIDスイープの3バンドEQ、ステレオチャンネルに3バンドEQを搭載。さらにインサートI/Oを装備し、1ノブコンプレッサーに加え、お手持ちのノイズゲートやEQなどの外部エフェクトをチャンネルごとにかけることで充実したサウンドメイキングに有効です。EMXシリーズでの最大バス数を誇る6バスには、ステレオアウト2系統、内蔵EFFECTセンド2系統、PRE/POST切替可能なAUX2系統を装備。ステージモニターとして使用する場合、ボーカル用にはウェットなPOSTでのモニタリング、ドラム用にはドライなPREでのモニタリングといった振り分けも可能です。また、各チャンネルにはフェーダー前の音声が検聴できるPFL (Pre Fader Listen) SWも装備しています。

世界的定番のSPXエフェクトを2系統装備

エフェクターには世界的に高い評価を得ているデジタルマルチエフェクトのスタンダードモデル「SPX」を2系統装備。24bit AD/DA、内部処理32bitの高音質で本格的なエフェクト処理が行えます。リバーブ、ディレイなど使用頻度の高いプログラムを中心に、ゲートリバーブ、シンフォニックやラジオボイスなど、個性的なプログラムも含めそれぞれ16種類をプリセット。各プログラムは専用ツマミで調整が可能、シンプルな操作性を追及しました。また、エフェクトのON/OFFは足元でコントロールすることもできます (別売フットペダル FC-5を使用)。

SPX DIGITAL MULTI EFFECT PROCESSOR

その他の機能

- 様々なソースに対応できるゲインコントロールと26dBパッドスイッチ (1~8チャンネル)。
- 不要な低音域ノイズやハムを除去するための80Hzハイパスフィルター (全チャンネル)。
- 各入力チャンネルのオン/オフをコントロールするチャンネルONスイッチ。
- AUX1、AUX2、EFFECTの各リターン信号のみをモニターできるAFL (アフターフェーダーリッスン) スイッチを装備。
- ステレオマスターフェーダーにPFLスイッチとAFLスイッチを装備。
- パワーアンプのオーバーロード時は内蔵リミッター回路が自動的に作動し、リミッターインジケーターが点灯。
- パワーアンプモードではパワーアンプの動作構成を「L + R」、「MONO + AUX1」、「AUX1 + AUX2」の中から選択可能。
  - 「L + R」 ―本機のスピーカー出力 (A、B) からメイン出力信号をステレオで供給。
  - 「MONO + AUX」 ―メイン出力信号 (モノラル) とAUX1 出力信号を供給。

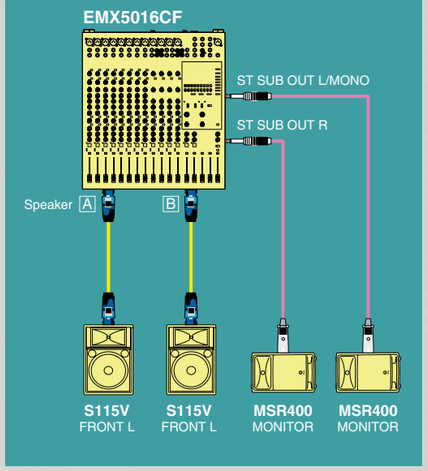
- パワーアンプ出力セレクターを使って、チャンネル出力パワーを500W、200W、75Wの中から選択可能。
- スタンバイスイッチを使って、全モノ入力チャンネルを瞬時にミュート可能。

- きめ細かいレベル監視が可能な12セグメント・ステレオレベルメーター。
- レベルを独立に調整可能なヘッドフォン端子を装備。
- ヤマハConcert Clubシリーズの特性にベストチューニングされた出力特性を持つYSプロセッシングを装備。
- 豊富な出力端子を装備。たとえば、ST SUB OUTからの出力をヤマハ「P-Sシリーズ」アンプのサブウーファーモード (HIGH CUT) を使用したり、パワードサブウーファー「MSR800W」との組み合わせることで、よりパワフルなサブウーファーシステムの構築が可能です。
- 迅速で確実な接続が可能なSPEAKON (スピコン) 端子およびフォーンジャックのスピーカー端子を装備。
- 暗い場所でも確実な操作を可能にするLAMP端子までも装備。市販のXLR3ピン型のランプを使用可能 (AC12V、またはDC12V、最大5W)。

システム例

中規模PAシステム

EMX5016C Fのスピーカー出力Aにフロントスピーカーの S115Vを接続。ステージモニターとして、EMX5016C Fのステレオサブアウトにパワードスピーカー MSR400 × 2を接続。このとき、パワーアンプモードセレクターを「500 W」、「L/R」に設定します。追加ある500W + 500W出力のシステムです。



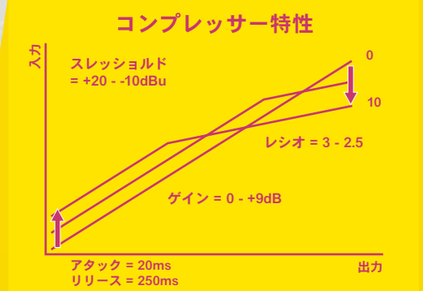
EMXシリーズが継承する基本性能を強化。軽量・コンパクトとハイパワー・高音質を両立したコンソールタイプパワードミキサー

EMX5014Cはコンパクトなボディに豊富な機能を凝縮し、ハイパワー、高音質を両立した、コンソールタイプのパワードミキサーです。ボックスタイプのEMX512SC/EMX312SC/EMX212Sと同様に、軽量化された本体は優れた可搬性を誇り、ラックマウントも可能(要ラックマウントキット)で、据え置きのPA設備としても使用可能です。シンプルな操作性は、バンドで使用するときや、PAオペレーターにも大きな魅力です。EMXシリーズが継承している、ミキサー部の音質、機能といった基本性能をさらに強化し、1ランク上のライブサウンドを実現します。

EMX5014C POWERED MIXER

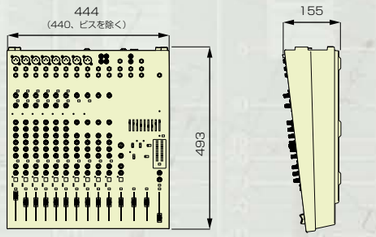
- 最大8マイク入力、トータル14入力
- 4ステレオ入力
- 500W + 500W (4Ω)
- 入力ゲイントリム
- HPF
- 3バンド・ミッドスイープ・チャンネルEQ
- チャンネルコンプレッサー
- FCLシステム
- PFL/AFL
- 2AUX
- SPXデジタルエフェクト
- 9バンド・ステレオグラフィックEQ
- YSプロセッシング
- パワーアンプモードセレクト
- スタンバイモード
- 軽量設計(10.5kg)
- ラックマウント可能(12U)

※ RK5014が(別売)必要です。
※ SPEAKERS端子に接続するコネクター分として本体の12Uに加え2~3U分の余裕が必要です。



寸法図

単位: mm



リアパネル

操作性に優れたオールインワンコンセプト

EMX5014Cはミキサー、パワーアンプ、グラフィックEQ、デジタルエフェクターを一台に凝縮。アウトボードとして必要な機能も内蔵されており、すべての作業をこの一台で処理することができるオールインワン仕様のため、煩わしい機器同士の配線や調整がなく、素早いセッティングが可能です。

新開発のチャンネルコンプレッサーを搭載

全モノチャンネル(6チャンネル)には、新開発のアナログコンプレッサー回路を搭載。ライブでのマイク使用では必須となるコンプレッサーを6系統装備し、効果的な音作りが可能です。本来調整が難しいとされるコンプレッサーも、独自の音楽的なチューニングにより面倒なパラメーター設定も排除され、COMPつまみひとつでかかり具合を調整できます。ミックスサウンド内でのボーカルの輪郭を際立たせたり、ギターサウンドを滑らかにしたり、ベースサウンドにパンチを加えるなど、各入力ソースに応じた音作りに威力を発揮します。

フィードバック検知機能 (FCLシステム)

各チャンネルの上部に、FCL(フィードバック・チャンネル・ロケーティング)システムインジケーターを搭載。不快なハウリングやフィードバックが発生したチャンネルをLEDランプが点灯することで知らせます。常時フィードバックしやすいチャンネルを監視しながら、ゲインやレベル、EQなどを調整することで、未然にフィードバックを防止できます(1~9/10チャンネル)。

クラスを超えた高音質の実現と高い信頼性

自社の厳しい品質基準をクリアしたパーツだけを厳選し、クラスを上回る高音質を実現。たとえば、感度の高いヘッドアンプ回路にはNiCr系薄膜※を抵抗体とした特殊な低雑音チップ抵抗を使用し、透明感かつ豊かな低音のある自然なサウンドを実現しました。また、プロ用PA機器の開発で培った技術を基に、グランドの取り方も独自に工夫。電源トランスから発生する低周波ノイズも徹底的に抑え込み、音質への配慮も万全です。

※ 電気抵抗発熱を利用する電熱線材の代表的なニッケルとクロムの合金を利用した薄膜。

高音質/大出力と省電力を両立するスイッチングアンプドライブ技術を採用

高音質/大出力を実現するには、パワーアンプの駆動効率が高くなり消費電力や重量が増加します。しかし可搬性を求めた場合には、全く逆のシステムになります。EMXシリーズでは、この相反することを両立するためにスイッチングアンプを採用。急峻な音の立上がりへの優れた追従性や低い歪率に代表される高音質と省電力化を同時に実現。500W + 500W (4Ω) という大出力を誇るパワーアンプを内蔵しました。

さらなる軽量化と実用性・可搬性の高いデザイン

EMX5014Cでは、外装に耐傷性、耐久性に優れた軽量素材とスイッチング電源の採用により、従来の500Wクラスの大出力パワーアンプ搭載機では成し得なかった、コンソールタイプのEMXシリーズ最軽量化を実現しました。また、ボディ下部の大型キャリングハンドルもコンパクトなボディを生かすために新しくデザインされ、実用性、可搬性を大幅に向上しました。

わかりやすく機能的なレイアウトを採用したミキサー部

EMX5014Cはトータル14系統の入力チャンネルとして、最大8系統のマイク入力と4系統のステレオ入力を装備。すべてのマイク入力にはファンタム電源(+48V)が供給可能です。1~6チャンネルにはインサート端子も装備。外部プロセッサーによる信号処理も可能です。さらにAUXセンドやEFFECTセンド機能を使って外部エフェクターやモニターシステムを活用することもできます。また、RCAピン入力端子も備えた2系統のステレオチャンネルには、CD、MDなども使用でき、さらにチャンネルEQによる補正も可能です。チャンネルEQには、1~6チャンネルにはミッドスイープ3バンドEQ、7~14チャンネルには3バンドEQを採用。モノチャンネルのミッドスイープは250Hz~5kHzの範囲で周波数をピンポイントに設定可能。状況にマッチした理想的なイコライジングカーブを作ることができます。また、最終のステレオ出力段に搭載された9バンドステレオグラフィックEQは、音場に合わせたトータルのサウンド調整やフィードバック対策に使うことができます。ST OUT、ST SUB OUT、REC OUTなどの出力端子も装備していますので、ミキサー出力信号を外部アンプに送りPAシステムやモニタースピーカーなどを増強したり、レコーダーあるいは大型ミキサーに送り出すことも可能です。

デジタルエフェクターの定番「SPX」を内蔵

デジタルマルチエフェクターの先駆けとして世界中のレコーディングスタジオやSRシーンで活躍を続ける「SPX」を内蔵。高性能、高音質で定評のあるSPXエフェクトを実用的なパラメーター可変の16種類に納めました。高品位なリバーブ、ディレイといったモジュレーション系はもちろん、積極的なサウンドメイクに活用できるデジタルディストーションも搭載。オプションのフットスイッチ「FC5」により、エフェクトのオン/オフの切替えを足元で行うことも可能です。

SPX DIGITAL MULTI EFFECT PROCESSOR

ヤマハスピーカー特性にベストチューニングする「YSプロセッシング」を内蔵

SR用スピーカーである、ClubシリーズやBRシリーズなどのスピーカー特性に最適化したセッティングを瞬時に呼び出し可能な「YSプロセッシング(ヤマハスピーカープロセッシング)」機能を搭載。スピーカーの性能を最大限に引き出し、メリハリの効いたパワー感のあるセッティングが可能です。

ラックマウント可能

別売の「RK5014」を追加することで、ラックマウントが可能。他のプロセッサーと一緒にPA用移動ラックに納めたり、屋内の固定設備にも利用できます。

その他の機能

- あらゆるソースに対して最適なレベルマッチングが得られるゲインコントロールと26dBパッドスイッチ(1~6チャンネル)。
- 不要な低音域ノイズやハムを除去するための80Hzハイパスフィルター(1~9/10チャンネル)。
- 個々の入力チャンネルのオン/オフをコントロールするチャンネルONスイッチ。
- モノチャンネル信号のステレオミックス上の定位を設定するパンコントロール。ステレオチャンネルにはステレオイメージのバランスを設定するバランスコントロールを装備。
- 各チャンネルのレベルを調整する高性能リニアフェーダー。
- 特定のチャンネル信号のみをモニターできるPFL(プリフェーダーリッスン)スイッチ。
- AUX1、AUX2、EFFECTの各リターン入力にはリニアフェーダーを搭載。また各リターン信号のみをモニターできるAFL(アフターフェーダーリッスン)スイッチを装備。
- ステレオマスターフェーダーにPFLスイッチとAFLスイッチを装備。
- パワーアンプのオーバーロード時は内蔵リミッター回路が自動的に作動し、リミッターインジケーターが点灯。
- パワーアンプモードではパワーアンプの動作構成を「L + R」、「MONO + AUX1」、「AUX1 + AUX2」の中から選択可能。
  - 「L + R」—本機のスピーカー出力(A, B)からメイン出力信号をステレオで供給。
  - 「MONO + AUX」—メイン出力信号(モノラル)とAUX1 出力信号を供給。

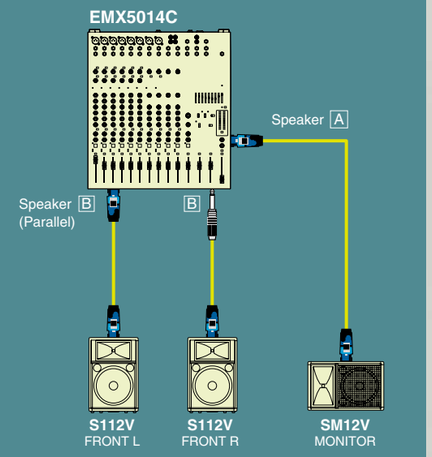
- パワーアンプ出力セレクターを使って、チャンネル出力パワーを500W、200W、75Wの中から選択可能。
- スタンバイスイッチを使って、全モノ入力チャンネルを瞬時にミュート可能。

- きめ細かいレベル監視が可能な12 セグメント・ステレオレベルメーター。
- レベルを独立に調整可能なヘッドフォン端子を装備。
- 迅速で確実な接続が可能なSPEAKON(スピコン)端子およびフォーンジャックのスピーカー端子を装備。

システム例

中規模PAシステム

フロントスピーカーのS112VをEMX5014Cのスピーカー出力Bにパラレル接続し、ステージモニターのSM12Vをスピーカー出力Aに接続します。なお、パワーアンプモードセレクターを「MONO+AUX1」に設定します。



ライブからイベント、設備用途など、様々なシーンで活躍する オールインワン・パワードミキサー

パワードミキサーEMX512SC/EMX312SC/EMX212Sは、その軽量なボックスタイプのボディから迫力ある大出力が得られ、可搬性と簡便性を求められるどんなシーンにも最適です。コンパクトなボディにミキサー、グラフィックEQ、デジタルエフェクター、パワーアンプといったPAに必要な機能を凝縮した、誰にでも扱いやすいオールインワン・パワードミキサーです。豊富な入出力系は、マイクやライン入力、BGMに使用するCDプレーヤーなど、入力ソースを選ぶことなく対応します。各チャンネルにはEQも備え、様々なシーンで活躍します。

操作性を高めた新デザイン

ボックスタイプのEMXシリーズには、ボディデザインに共通して傾斜がついています。操作性と視認性を高めた画期的なキャビネットです。

EMX512SC POWERED MIXER

500W + 500Wの大出力アンプは、迫力溢れる力強いサウンドを提供します。広いスペースや大人数を収容するスペース、あるいはアウトドアでの使用など、大出力が必要な場合におすすめです。

- 最大8マイク入力、トータル12入力
- 2ステレオ入力
- 500W + 500W (4Ω)
- 3バンドチャンネルEQ
- 7バンド・ステレオグラフィックEQ
- チャンネルコンプレッサー
- FCLシステム
- SPXデジタルエフェクト
- パワーアンプモードセレクト
- スタンバイモード
- YSプロセッシング
- 軽量設計 (8kg)
- 斜め置き対応キャビネット
- ラックマウント可能 (7U)

※RK512 (別売) が必要です。

EMX312SC POWERED MIXER

中規模なシステムには、300W + 300W 出力のEMX312Cが最適です。50人くらいを収容する教室、会議室や、バンドの練習用などにも適しています。

- 最大8マイク入力、トータル12入力
- 2ステレオ入力
- 300W + 300W (4Ω)
- 3バンドチャンネルEQ
- 7バンド・ステレオグラフィックEQ
- チャンネルコンプレッサー
- FCLシステム
- SPXデジタルエフェクト
- パワーアンプモードセレクト
- スタンバイモード
- YSプロセッシング
- 軽量設計 (8kg)
- 斜め置き対応キャビネット
- ラックマウント可能 (7U)

※RK512 (別売) が必要です。

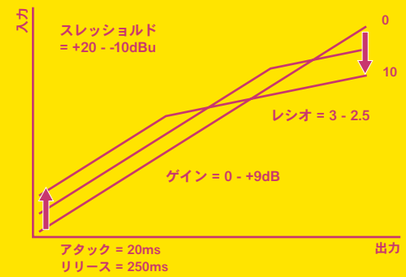
EMX212S POWERED MIXER

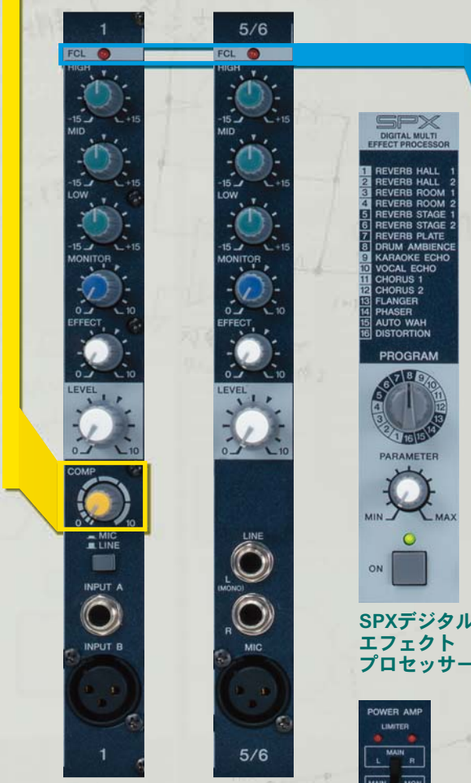
EMXシリーズでは最小出力ですが、200W + 200W (4Ω) を誇ります。司会を必要とするイベントや、中規模なスペースでもBGMを流すだけのような場合には十分に対応できます。

- 最大8マイク入力、トータル12入力
- 2ステレオ入力
- 200W + 200W (4Ω)
- 3バンドチャンネルEQ
- 7バンド・ステレオグラフィックEQ
- FCLシステム
- SPXデジタルエフェクト
- パワーアンプモードセレクト
- スタンバイモード
- YSプロセッシング
- 軽量設計 (8kg)
- 斜め置き対応キャビネット
- ラックマウント可能 (7U)

※RK512 (別売) が必要です。

コンプレッサー特性



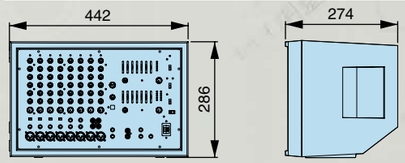


モノチャンネル　ステレオチャンネル　SPXデジタルエフェクトプロセッサー　パワーアンプモード

リアパネル

寸法図

単位: mm



定評あるEMXシリーズを継承

ベストセラーのEMXシリーズがフルモデルチェンジ。ボックスタイプのEMX512SC/EMX312SC/EMX212Sは、その小型なボディにミキサー、パワーアンプ、グラフィックEQ、デジタルエフェクターを一台に凝縮し、さらにアウトボードとして必要な新機能を搭載したオールインワン・パワードミキサーです。各国の安全基準/電波基準に適合し、新たに設けた60項目以上にも及ぶ独自の厳格な試験基準をクリアしています。世界各国で活躍するライブコンソールを提供し続けるヤマハならではの信頼性、音質、サウンドはEMXでも継承されています。

新開発のチャンネルコンプレッサーを搭載 (EMX512SC/EMX312SC)

全モノチャンネル (4チャンネル) には、新開発のアナログコンプレッサー回路を搭載。ライブでのマイク使用では必須となるコンプレッサーを6系統装備し、効果的な音作りが可能です。本来調整が難しいとされるコンプレッサーも、独自の音楽的なチューニングにより面倒なパラメーター設定も排除され、COMPつまみひとつでかかり具合を調整できます。ミックスサウンド内でのボーカルの輪郭を際立たせたり、ギターサウンドを滑らかにしたり、ベースサウンドにパンチを加えるなど、各入力ソースに応じた音作りに威力を発揮します。

フィードバック検知機能 (FCLシステム)

各チャンネルの上部に、FCL (フィードバック・チャンネル・ロケーティング) システムインジケーターを搭載。不快なハウリングやフィードバックが発生したチャンネルをLEDランプが点灯することで知らせます。常時フィードバックしやすいチャンネルを監視しながら、ゲインやレベル、EQなどを調整することで、未然にフィードバックを防止できます。

さまざまな用途に対応できる豊富な入出力

EMXシリーズはトータル12系統の入力チャンネルとして、最大8系統のマイク入力と4系統のステレオ入力を装備。すべてのマイク入力にはファンタム電源が供給可能です。1～4チャンネルにはMIC/LINEのレベル切り替えスイッチにより、入力ソースを選びません。また、RCAピン入力端子も備えた2系統のステレオチャンネルには、CD、MDなども使用でき、さらにチャンネルEQによる処理が可能です。外部パワーアンプや外部エフェクトに信号を送出するための出力端子も用意。スピーカー出力以外の出力端子は前面に配置されているため、配線やオペレーションは前面だけ操作でき、便利です。

さらなる軽量化と実用性・可搬性の高いデザイン

外装に耐傷性、耐久性に優れた軽量素材とスイッチング電源の採用により、従来のEMXシリーズ (EMX88S/68Sとの比較) より大幅に仕様向上したパワーアンプを搭載しながらも、約50%の軽量化 (8 kg) 実現しました。また、ボディサイドのキャリングハンドルもコンパクトなボディを生かすために新しくデザインされ、斜め置きにも対応し、実用性、可搬性を大幅に向上しました。

わかりやすく機能的なレイアウトを採用したミキサー部

各チャンネルのEQには、3バンドEQを採用。積極的な音作りを可能にします。また、1～4チャンネルにはFCLシステムやチャンネルコンプレッサーを併用しながら、歪みのない音作りが可能です。各チャンネルにモニター出力をコントロールするモニターレベルを装備。モニターアウトへのバランスを調整できます。また、メイン用、モニター用に搭載された7バンド・グラフィックEQは、音場に合わせたトータルのサウンド調整やフィードバック対策に使うことができます。

デジタルエフェクターの定番「SPX」を内蔵

デジタルマルチエフェクターの先駆けとして世界中のレコーディングスタジオやSRシーンで活躍を続ける「SPX」を内蔵。高性能、高音質で定評のあるSPXエフェクトを実用的なパラメーター可変の16種類に納めました。高品位なリバーブ、ディレイといったモジュレーション系はもちろん、積極的なサウンドメイクに活用できるデジタルディストーションも搭載。オプションのフットスイッチ「FC5」により、エフェクトのオン/オフの切替えを足元で行うことも可能です。

ヤマハスピーカー特性にベストチューニングする「YSプロセッシング」を内蔵

SR用スピーカーである、ClubシリーズやBRシリーズなどのスピーカー特性に最適化したセッティングを瞬時に呼び出し可能な「YSプロセッシング (ヤマハスピーカープロセッシング)」機能を搭載。スピーカーの性能を最大限に引き出し、メリハリの効いたパワー感のあるセッティングが可能です。

スタンバイモード

チャンネル1～8を一括してミュートできるSTAND-BYスイッチを装備。スタンバイモード中もチャンネル9/10、11/12はミュートされませんので、このチャンネルのLINE入力にCDプレイヤーなどを接続しておくことにより、演奏の合間にBGMを流すことができます。

ラックマウント可能

別売の「RK512」を追加することで、ラックマウントが可能。他のプロセッサーと一緒にPA用移動ラックに納めたり、屋内の固定設備にも利用できます。

P.T. Yamaha Music manufacturing Asia

—電子楽器とPA製品の生産拠点

ヤマハEMXシリーズパワードミキサーの商品設計から生産までの全工程は一貫して社内で行なわれています。

さらに生産ラインで製造される一つ一つの製品は、最新のテスト装置を使った厳しいクオリティコントロールをパスして初めて出荷されます。このように、ヤマハの製品は常に最高のクオリティを保証されているのです。

EMX開発チームインタビュー

新しいEMXに内蔵したコンプレッサー。ボーカルやアコースティックギターに最適です。ぜひ使いこなしてください。

新機能

• 今までのEMXシリーズと比べてどこが変わりましたか?その特長を教えてください。

• 一番は、コンプレッサーを内蔵したことです。レコーディングの世界では、必ずと言っていいほどコンプが必要です。もちろんライブでも必要なんですが、コンシューマーレベルのライブミキサーに入れたのはこれが初めてです（当社調べ）。

• ボックス型はインサート端子がないタイプなので、コンプを使おうとしてもできなかった。それができるようになったことが大きいです。このタイプを使う人たちはコンプを使ったことがない人たちなので、ぜひ使ってみて欲しいです。

• あらゆる音楽制作の場で、必ずと言っていいほど使用されているにもかかわらず、初心者には難しくて使えない。だから実用的なチャンネルにとどめ、より簡単に使えるようにしました。

• あとは、FCL (Feedback Channel Locating)ですね。これはハウリングを検知したチャンネルをお知らせする機能で、他社ではグライコのところにインジケーターがあり、ハウリングしている周波数を表示するものはありました。しかし、検知する場所をチャンネルにすることで、チャンネルEQで補正が可能になります。

• もし、EMXについているグライコでやろうとすると、どうしても最終段、音の出口のところで、音質が変わってしまいます。なので、音の入り口で先に調整をすることで、全体を整える方が音質的にも影響が少なくなります。

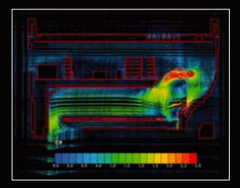
• 先代のモデルに比べてさらなるコンパクト化、軽量化もポイントです。個体を大きくすると楽に音質の向上が図れますが、小さくするとなると、どうしても熱の影響や部品の形状に制約が出てくるため、音質への影響を最小限に抑えることが一番苦労しました。

熱との戦い

• その苦労話を聞かせてください。

• 大出力の場合には、熱の問題が大きくなってきます。今回は軽量化も1つの目標になっていたので、デザインチーム、ハードチーム、メカチームなどが一丸となって協力しあい、実現できたものです。1つの部品を替えることで、熱の流れ方が変わり、ヒートシンク（放熱板）の形状を変えなくてはならなかったり、その形状が音質に影響を与えるので、さらに部品交換をするという、トライアンドエラーの繰り返しでした。

• 今回、先に内部の熱流動解析シミュレーションができたことが非常に大きなポイントでした。あらかじめ、コンピューター上でボディ形状を決め、ヒートシンクの形を模索しながら、熱の流れを解析していくと言う作業で、80～90%くらいまで精度を上げることができました。そこから実機テストでのトライアンドエラーです。



• ボックス型の212C、312SC、512SCでは熱を逃がすファンの位置を基盤から離すことができたので、音質への影響は少なかったのですが、コンソール型の5014C、5016CFでは平らと言うこともあり、ファンを置く位置には苦労しました。通風路確保のため、ファンと入力部が近いので、放熱も考えながら電磁ノイズやメカの振動ノイズなど、音に影響が出ない対策をしています。

• ハードチームのほうからボディを「あと30mm大きくして欲しい」という要望が出てきたときは、ちょっと困りました（笑）。デザイン面からすると、例えばボックス型では斜めにできるとか、取っ手部分の出っ張りを無くしてすっきりとしたデザインにしたかったこともあり、ハードチームには申し訳なかったのですが、ここは譲れませんでした。

機能を減らすことなく、耐久性を考慮したデザイン

• たしかにデザイン面ではどちらもすごくシンプルに見えます。デザイン面でのコンセプトを教えてください。

• 特にコンソール型の5014C、5016CFでは、シンプルにしたかったということがあります。ミキサーとして操作部分だけを見せるようにしたかったのです。ですので、ミキサー部分とユーティリティ部分をはっきりと区別して、取っ手さえも見せたくなかったのです。

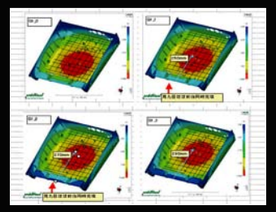
• ボックス型のほうのアイデアとしては、モニターのように傾けることができます。これは操作性を重視しました。コンパクトな設計がスピーカーにもマッチしています。また、MSR100というスピーカーで、見えない一体型の取っ手になってますね。ところが、これを実現しようとすると今度は強度の問題がつきまといます。

• 耐久性の問題ですね?

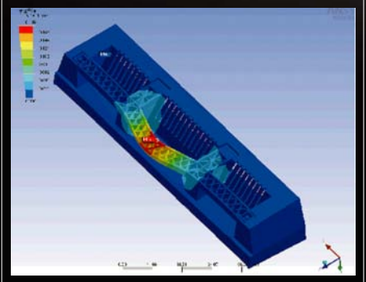
• そうです。耐久性とコンパクト化、軽量化の両立が非常に難しいです。もちろんハードチームやメカチーム、営業からどんどん要求が厳しくなっていくんです。まず、機能が減ることはありません。そこでこちらも熱の問題と同じように、ボックス型の方で外装に使う樹脂の流動設計のシミュレーションをしました。

• 具体的に教えてください。

• 型は樹脂を流し込んで作ることは想像できると思います。その型に樹脂を入れるときに、どこから樹脂を入れて、どんな条件で射出すると、強度がどうなるか、そのときの成型はどうなるのか、これらの条件をコンピューター上で解析して、あらかじめ予想して作るんです。



• 同じように、ハンドル部分の強度もコンピューター解析をしています。ハンドル部分にはプラスティックを使用しているものの、強度的にはアルミ同等の強度を持っています。



ストレートな音質の確保

• では、基本である音質についてはいかがでしょうか?

• もちろん、先代同様に音質には気を配りました。音質を優先することで、部品変更などで生じるハム、ノイズの低減化に苦労しました。まずは振動を抑えなくてはなりません。そして各部品に電流が流れ込むことで影響があり、オペアンプのICで音質ががらりと変わることもあります。どうしても妥協できないところは1ランク上の部品を使用しています。FCLの音への影響などもあり、部品を1つ取っただけで音が格段に良くなるなど、最後は実機上で部品を切った貼ったのレベルで落とし込んでいって、音質を決めました。音質は耳で聞いて確かめて、の繰り返しでした。実際のエバリュエーションで音を聞いてもらって、納得の行く音に仕上げました。

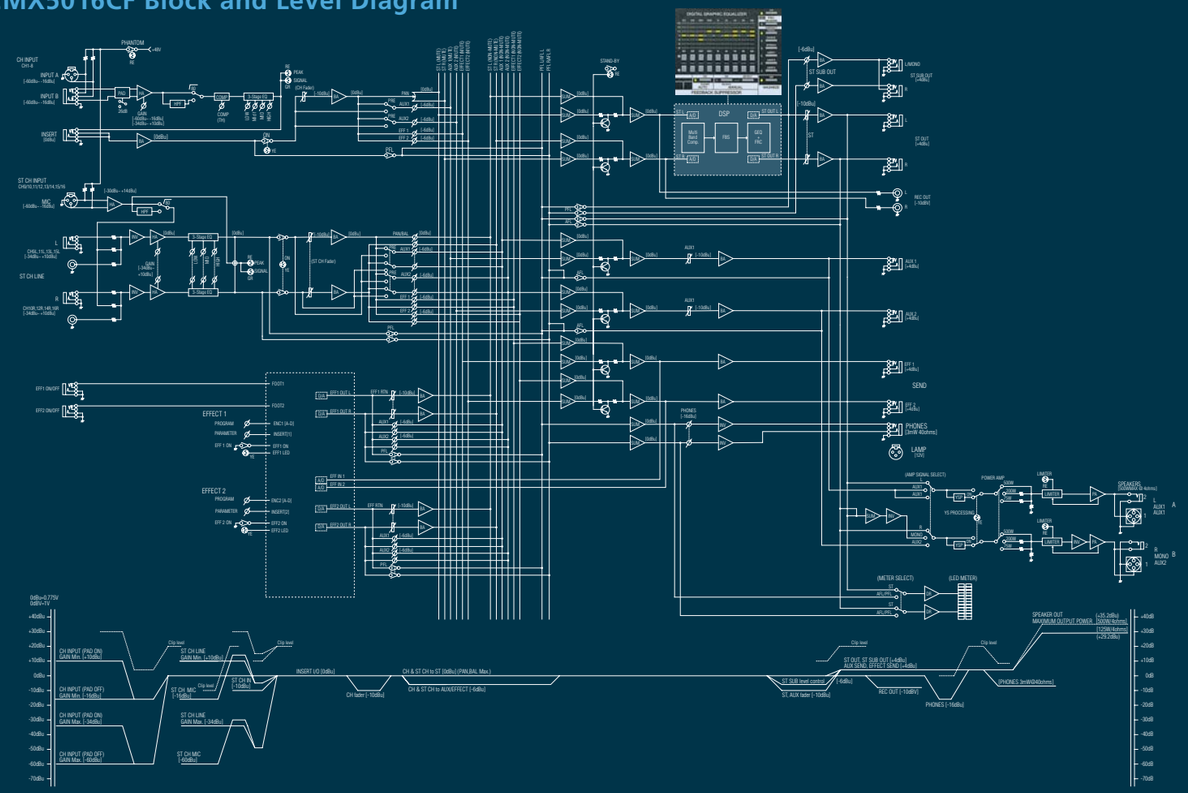
• 今回はSPXもEMX全機種に搭載することができましたし、コンプ、FCLもある。マイクをメインで使うライブでは、本当にこれ1台で足りてしまいます。

• コンプレッサーは通常2つのコントロールが必要かと思うのですが、1つにした理由を教えてください。

• ユーザーにとって簡単にしたかったからです。やはりコンプは初心者には、その設定が難しいものです。そこで、レシオとスレッショルドをバランス良く設定しておくことで、ツマミを1つにできました。用途をマイクに絞ることで、本来使用するべきであるボーカルや、アコースティックギターなどに対して、必要なときにすぐにコンプをかけることが可能になりました。

• 取扱説明書にも、初心者向けのコラムとしてコンプを詳しく説明をしています。ぜひコンプを効果的に使用して欲しいです。

EMX5016CF Block and Level Diagram



EMX5016CF Specifications

主要規格

品名	EMX5016CF
最大出力 1 kHz、THD+N ≦0.5%	500 W + 500 W (4 Ω) 370 W + 370 W (8 Ω)
周波数特性	-3, 0, 1 dB 20 Hz ~ 20 KHz, 0dB @ 1 kHz/10 kΩ
全高調波歪率	0.3%以下 (THD + N) @ +14 dBu @ 20 Hz ~ 20 kHz
入力換算ノイズ	-128 dBu, ゲイン = Max、ST OUT
クロストーク @ 1 kHz	-68 dB
入力端子	CH 1 ~ 8: XLR and Phone CH 9/10 ~ 15/16: Phone and Pin
チャンネルイコライザー	CH 1 ~ 8: HIGH (10 k、シェルビング)、MID (mono: 250-5 k, st: 2.5 k、ピーキング)、LOW (100、シェルビング) CH 9/10 ~ 15/16: HIGH (10 k、シェルビング)、MID (st: 2.5 k、ピーキング)、LOW (100、シェルビング)
ファンタム電源	+48 V
デジタルグラフィックイコライザー	9 Band (63, 125, 250, 500, 1 k, 2 k, 4 k, 8 k, 16 kHz), ±12 dB Preset x 3, User preset x 3
デジタルエフェクター	SPX Digital Multi Effector x 2 (各24 bit AD/DA 16 プログラム、PARAMETER コントロール)
パワーアンプモード	L/R, AUX1/MONO, AUX1/2
フットスイッチ	Effect On/Off x 2
消費電力	550 W
寸法 (W x D x H)	444 x 493 x 155 mm
重量	11 kg

*測定時のレベルコントロールはすべてノミナル、シグナルジェネレーターの出力インピーダンス150Ω

● 別売オプション

ラックマウントキット RK5014

フットスイッチ FC5

入力規格

入力端子名称	PAD	GAIN	入力インピーダンス	適合インピーダンス	入力レベル 感度 *2 レベル	入力レベル ノミナルレベル	入力レベル 最大ノンクリップレベル	端子仕様
CH INPUT A 1 ~ 8	0dB	-60 dB	3 kΩ	50-600 Ω Mics	-80 dBu (0.078 mV)	-60 dBu (0.775 mV)	-40 dBu (7.75 mV)	XLR (3-31) 端子 *3
		-16 dB			-36 dBu (12.3 mV)	-16 dBu (123 mV)	+4 dBu (1.23 V)	
	26dB	-34 dB			-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155 mV)	
		+10 dB			-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45 V)	+30 dBu (24.5 V)	
CH INPUT B 1 ~ 8	0dB	-60 dB	10 kΩ	600 Ω Lines	-80 dBu (0.078 mV)	-60 dBu (0.775 mV)	-40 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *4
		-16 dB			-36 dBu (12.3 mV)	-16 dBu (123 mV)	+4 dBu (1.23 V)	
	26dB	-34 dB			-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155 mV)	
		+10 dB			-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45V)	+30 dBu (24.5 V)	
ST CH MIC INPUT 9/10 ~ 15/16	—	-60 dB	3 kΩ	50-600 Ω Mics	-80 dBu (0.078 mV)	-60 dBu (0.775 mV)	-40 dBu (7.75 mV)	XLR (3-31) 端子 *3
		-16 dB			-36 dBu (12.3 mV)	-16 dBu (123 mV)	-10 dBu (245 mV)	
ST CH LINE INPUT 9/10 ~ 15/16	—	-34 dB	10 kΩ	600 Ω Lines	-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155mV)	フォーン端子 *5 RCAピン端子
		+10 dB			-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45 V)	+30 dBu (24.5 V)	
CH INSERT IN (1 ~ 8)	—	—	10 kΩ	600 Ω Lines	-20 dBu (77.5 mV)	0 dBu (0.775 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *5

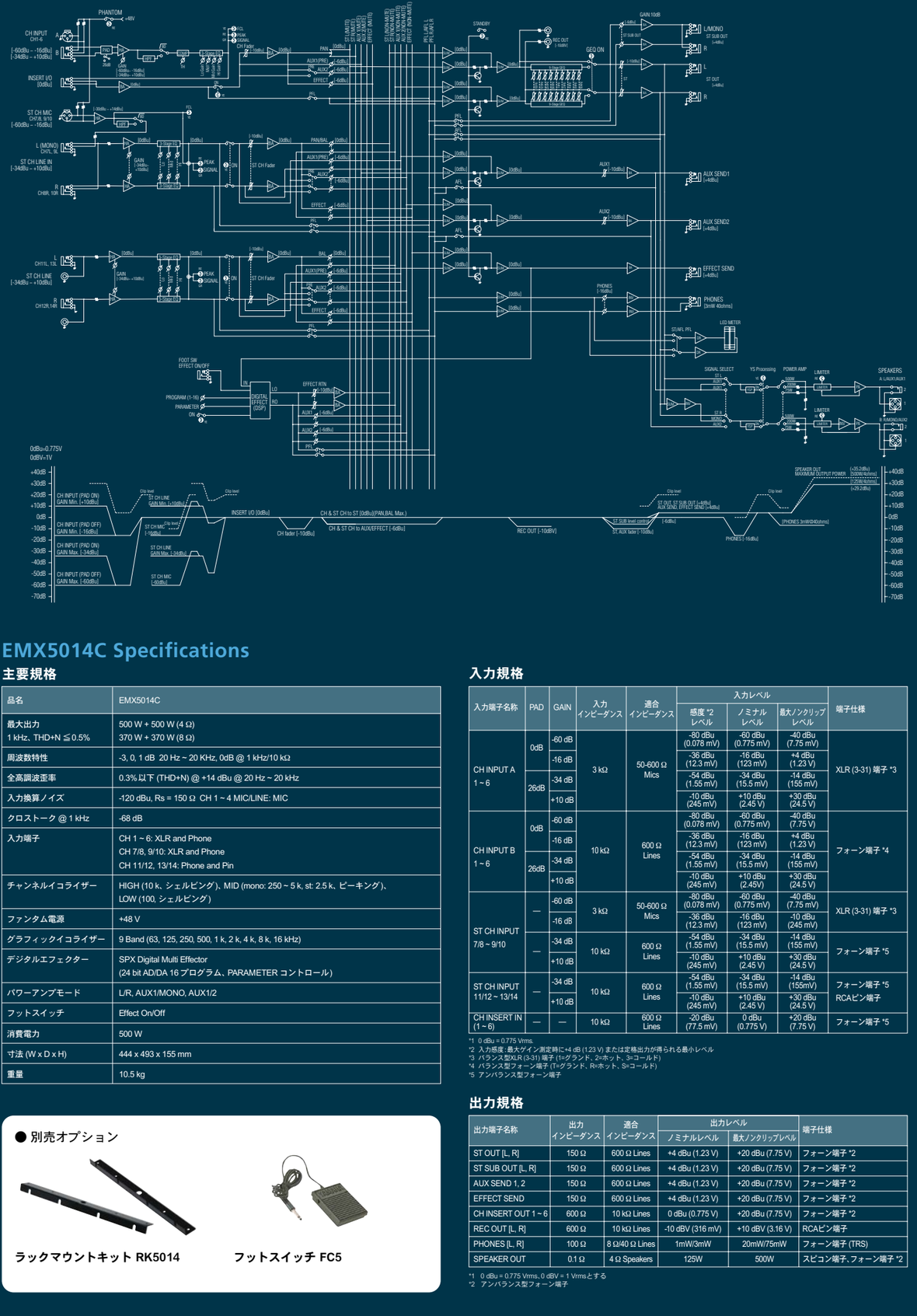
*1 0 dBu = 0.775 Vrms.
*2 入力感度：最大ゲイン測定時に+4 dB (1.23 V) または定格出力が得られる最小レベル
*3 バランス型XLR (3-31) 端子 (1=グランド、2=ホット、3=コールド)
*4 バランス型フォーン端子 (T=グランド、R=ホット、S=コールド)
*5 アンバランス型フォーン端子

出力規格

出力端子名称	出力インピーダンス	適合インピーダンス	出力レベル ノミナルレベル	出力レベル 最大ノンクリップレベル	端子仕様
ST OUT [L, R]	150 Ω	600 Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
ST SUB OUT [L, R]	150 Ω	600 Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
AUX SEND 1, 2	150 Ω	600 Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
EFFECT SEND 1,2	150 Ω	600 Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
CH INSERT OUT 1 ~ 8	600 Ω	10 kΩ Lines	0 dBu (0.775 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
REC OUT [L, R]	600 Ω	10 kΩ Lines	-10 dBV (316 mV)	+10 dBV (3.16 V)	RCAピン端子
PHONES [L, R]	100 Ω	40 Ω Lines	3mW	75mW	フォーン端子 (TRS)
SPEAKER OUT	0.1 Ω	4 Ω Speakers	125W	500W	スピコン端子、フォーン端子 *2

*1 0 dBu = 0.775 Vrms, 0 dBV = 1 Vrmsとする
*2 アンバランス型フォーン端子

EMX5014C Block and Level Diagram



0dBu=0.775V
0dBV=1V
CH INPUT (PAD ON) GAIN Min. [+10dBu]
CH INPUT (PAD OFF) GAIN Min. [-16dBu]
CH INPUT (PAD ON) GAIN Max. [-34dBu]
CH INPUT (PAD OFF) GAIN Max. [-60dBu]
ST CH MIC [-16dBu]
ST CH LINE GAIN Min. [+10dBu]
ST CH LINE GAIN Max. [-34dBu]
ST CH MIC [-60dBu]
INSERT I/O (0dBu)
CH fader [-10dBu]
CH & ST CH to ST [0dBu](PAN,BAL Max.)
CH & ST CH to AUX/EFFECT [-6dBu]
REC OUT [-10dBV]
ST SUB level control
ST OUT, ST SUB OUT [+4dBu]
AUX SEND, EFFECT SEND [+4dBu]
ST AUX fader [-10dBu]
PHONES [-16dBu]
SPEAKER OUT MAXIMUM OUTPUT POWER
(-20.2dBu) [500W/4ohms]
(-23.2dBu) [125W/4ohms]
(-29.2dBu)
(PHONES 3mW/40ohms)

EMX5014C Specifications

主要規格

品名	EMX5014C
最大出力 1 kHz、THD+N ≦0.5%	500 W + 500 W (4 Ω) 370 W + 370 W (8 Ω)
周波数特性	-3, 0, 1 dB 20 Hz ~ 20 KHz, 0dB @ 1 kHz/10 kΩ
全高調波歪率	0.3%以下 (THD+N) @ +14 dBu @ 20 Hz ~ 20 kHz
入力換算ノイズ	-120 dBu, Rs = 150 Ω CH 1 ~ 4 MIC/LINE: MIC
クロストーク @ 1 kHz	-68 dB
入力端子	CH 1 ~ 6: XLR and Phone CH 7/8, 9/10: XLR and Phone CH 11/12, 13/14: Phone and Pin
チャンネルイコライザー	HIGH (10 k、シェルビング)、MID (mono: 250 ~ 5 k, st: 2.5 k、ピーキング)、 LOW (100, シェルビング)
ファンタム電源	+48 V
グラフィックイコライザー	9 Band (63, 125, 250, 500, 1 k, 2 k, 4 k, 8 k, 16 kHz)
デジタルエフェクター	SPX Digital Multi Effector (24 bit AD/DA 16 プログラム、PARAMETER コントロール)
パワーアンプモード	L/R, AUX1/MONO, AUX1/2
フットスイッチ	Effect On/Off
消費電力	500 W
寸法 (W x D x H)	444 x 493 x 155 mm
重量	10.5 kg

入力規格

入力端子名称	PAD	GAIN	入力インピーダンス	適合インピーダンス	入力レベル 感度 *2	入力レベル ノミナルレベル	入力レベル 最大ノンクリップレベル	端子仕様
CH INPUT A 1 ~ 6	0dB	-60 dB	3 kΩ	50-600 Ω Mics	-80 dBu (0.078 mV)	-60 dBu (0.775 mV)	-40 dBu (7.75 mV)	XLR (3-31) 端子 *3
		-16 dB			-36 dBu (12.3 mV)	-16 dBu (123 mV)	+4 dBu (1.23 V)	
	26dB	-34 dB			-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155 mV)	
		+10 dB			-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45 V)	+30 dBu (24.5 V)	
CH INPUT B 1 ~ 6	0dB	-60 dB	10 kΩ	600 Ω Lines	-80 dBu (0.078 mV)	-60 dBu (0.775 mV)	-40 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *4
		-16 dB			-36 dBu (12.3 mV)	-16 dBu (123 mV)	+4 dBu (1.23 V)	
	26dB	-34 dB			-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155 mV)	
		+10 dB			-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45V)	+30 dBu (24.5 V)	
ST CH INPUT 7/8 ~ 9/10	—	-60 dB	3 kΩ	50-600 Ω Mics	-80 dBu (0.078 mV)	-60 dBu (0.775 mV)	-40 dBu (7.75 mV)	XLR (3-31) 端子 *3
		-16 dB			-36 dBu (12.3 mV)	-16 dBu (123 mV)	-10 dBu (245 mV)	
	—	-34 dB	10 kΩ	600 Ω Lines	-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155 mV)	フォーン端子 *5
		+10 dB			-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45 V)	+30 dBu (24.5 V)	
ST CH INPUT 11/12 ~ 13/14	—	-34 dB	10 kΩ	600 Ω Lines	-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155mV)	フォーン端子 *5 RCAピン端子
		+10 dB			-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45 V)	+30 dBu (24.5 V)	
CH INSERT IN (1 ~ 6)	—	—	10 kΩ	600 Ω Lines	-20 dBu (77.5 mV)	0 dBu (0.775 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *5

*1 0 dBu = 0.775 Vrms.
*2 入力感度：最大ゲイン測定時に+4 dB (1.23 V) または定格出力が得られる最小レベル
*3 バランス型XLR (3-31) 端子 (1=グランド、2=ホット、3=コールド)
*4 バランス型フォーン端子 (T=グランド、R=ホット、S=コールド)
*5 アンバランス型フォーン端子

出力規格

出力端子名称	出力インピーダンス	適合インピーダンス	出力レベル ノミナルレベル	出力レベル 最大ノンクリップレベル	端子仕様
ST OUT [L, R]	150 Ω	600 Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
ST SUB OUT [L, R]	150 Ω	600 Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
AUX SEND 1, 2	150 Ω	600 Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
EFFECT SEND	150 Ω	600 Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
CH INSERT OUT 1 ~ 6	600 Ω	10 kΩ Lines	0 dBu (0.775 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
REC OUT [L, R]	600 Ω	10 kΩ Lines	-10 dBV (316 mV)	+10 dBV (3.16 V)	RCAピン端子
PHONES [L, R]	100 Ω	8 Ω/40 Ω Lines	1mW/3mW	20mW/75mW	フォーン端子 (TRS)
SPEAKER OUT	0.1 Ω	4 Ω Speakers	125W	500W	スピコン端子、フォーン端子 *2

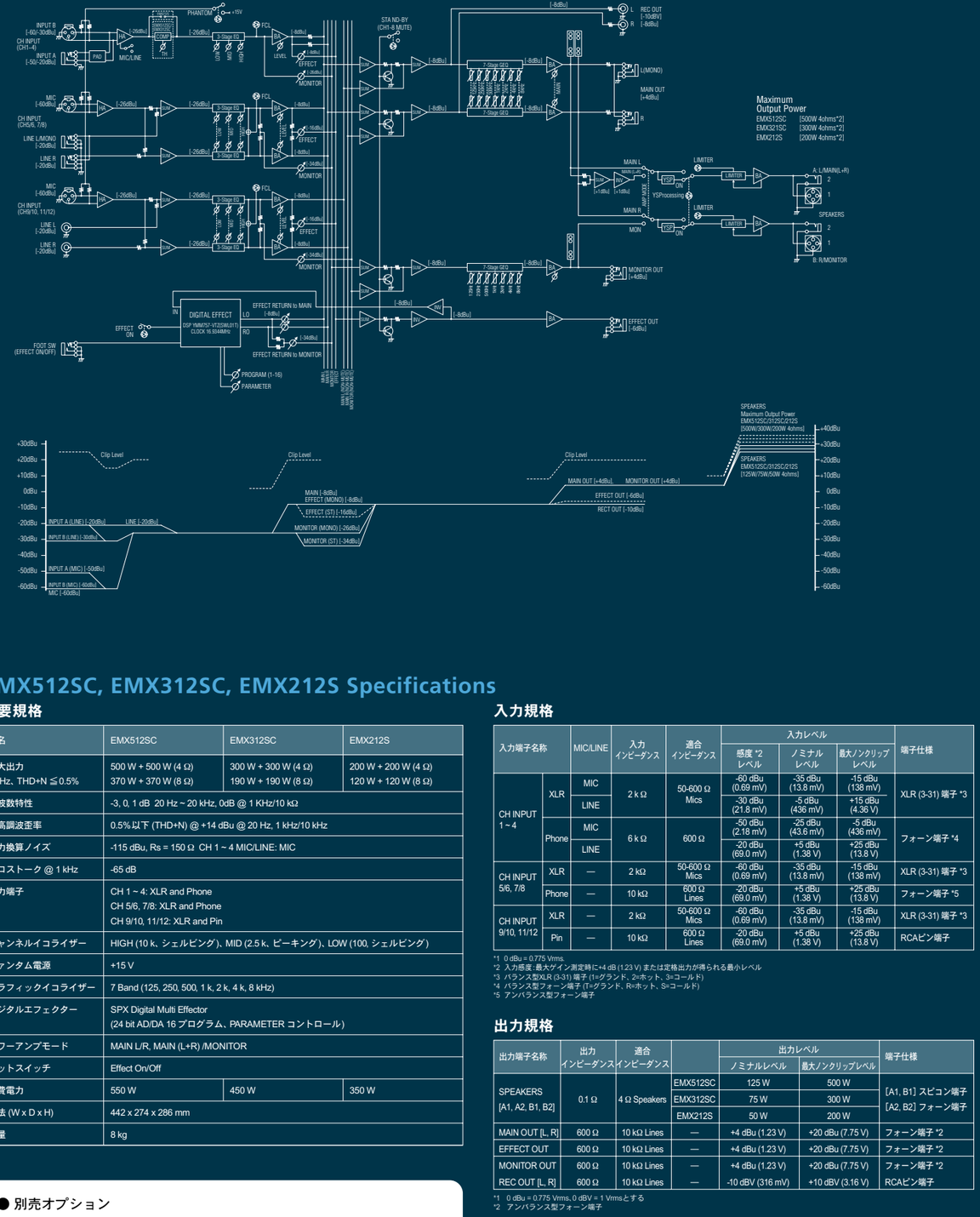
*1 0 dBu = 0.775 Vrms, 0 dBV = 1 Vrmsとする
*2 アンバランス型フォーン端子

● 別売オプション

ラックマウントキット RK5014

フットスイッチ FC5

EMX512SC, EMX312SC, EMX212S Block and Level Diagram



EMX512SC, EMX312SC, EMX212S Specifications

主要規格

品名	EMX512SC	EMX312SC	EMX212S
最大出力 1 kHz、THD+N ≦0.5%	500 W + 500 W (4 Ω) 370 W + 370 W (8 Ω)	300 W + 300 W (4 Ω) 190 W + 190 W (8 Ω)	200 W + 200 W (4 Ω) 120 W + 120 W (8 Ω)
周波数特性	-3, 0, 1 dB 20 Hz ~ 20 kHz, 0dB @ 1 KHz/10 kΩ		
全高調波歪率	0.5%以下 (THD+N) @ +14 dBu @ 20 Hz, 1 kHz/10 kHz		
入力換算ノイズ	-115 dBu, Rs = 150 Ω CH 1 ~ 4 MIC/LINE: MIC		
クロストーク @ 1 kHz	-65 dB		
入力端子	CH 1 ~ 4: XLR and Phone CH 5/6, 7/8: XLR and Phone CH 9/10, 11/12: XLR and Pin		
チャンネルイコライザー	HIGH (10 k、シェルビング)、MID (2.5 k、ピーキング)、LOW (100, シェルビング)		
ファンタム電源	+15 V		
グラフィックイコライザー	7 Band (125, 250, 500, 1 k, 2 k, 4 k, 8 kHz)		
デジタルエフェクター	SPX Digital Multi Effector (24 bit AD/DA 16 プログラム、PARAMETER コントロール)		
パワーアンプモード	MAIN L/R, MAIN (L+R) /MONITOR		
フットスイッチ	Effect On/Off		
消費電力	550 W	450 W	350 W
寸法 (W x D x H)	442 x 274 x 286 mm		
重量	8 kg		

入力規格

入力端子名称	MIC/LINE	入力インピーダンス	適合インピーダンス	入力レベル 感度 *2	入力レベル ノミナルレベル	入力レベル 最大ノンクリップレベル	端子仕様
CH INPUT 1 ~ 4	XLR MIC	2 k Ω	50-600 Ω Mics	-60 dBu (0.69 mV)	-35 dBu (13.8 mV)	-15 dBu (138 mV)	XLR (3-31) 端子 *3
	XLR LINE			-30 dBu (21.8 mV)	-5 dBu (436 mV)	+15 dBu (4.36 V)	
	Phone MIC	6 k Ω	600 Ω	-50 dBu (2.18 mV)	-25 dBu (43.6 mV)	-5 dBu (436 mV)	フォーン端子 *4
	Phone LINE			-20 dBu (69.0 mV)	+5 dBu (1.38 V)	+25 dBu (13.8 V)	
CH INPUT 5/6, 7/8	XLR —	2 kΩ	50-600 Ω Mics	-60 dBu (0.69 mV)	-35 dBu (13.8 mV)	-15 dBu (138 mV)	XLR (3-31) 端子 *3
	Phone —	10 kΩ	600 Ω Lines	-20 dBu (69.0 mV)	+5 dBu (1.38 V)	+25 dBu (13.8 V)	フォーン端子 *5
CH INPUT 9/10, 11/12	XLR —	2 kΩ	50-600 Ω Mics	-60 dBu (0.69 mV)	-35 dBu (13.8 mV)	-15 dBu (138 mV)	XLR (3-31) 端子 *3
	Pin —	10 kΩ	600 Ω Lines	-20 dBu (69.0 mV)	+5 dBu (1.38 V)	+25 dBu (13.8 V)	RCAピン端子

*1 0 dBu = 0.775 Vrms.
*2 入力感度：最大ゲイン測定時に+4 dB (1.23 V) または定格出力が得られる最小レベル
*3 バランス型XLR (3-31) 端子 (1=グランド、2=ホット、3=コールド)
*4 バランス型フォーン端子 (T=グランド、R=ホット、S=コールド)
*5 アンバランス型フォーン端子

出力規格

出力端子名称	出力インピーダンス	適合インピーダンス		出力レベル ノミナルレベル	出力レベル 最大ノンクリップレベル	端子仕様
SPEAKERS [A1, A2, B1, B2]	0.1 Ω	4 Ω Speakers	EMX512SC	125 W	500 W	[A1, B1] スピコン端子 [A2, B2] フォーン端子
			EMX312SC	75 W	300 W	
			EMX212S	50 W	200 W	
MAIN OUT [L, R]	600 Ω	10 kΩ Lines	—	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
EFFECT OUT	600 Ω	10 kΩ Lines	—	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
MONITOR OUT	600 Ω	10 kΩ Lines	—	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーン端子 *2
REC OUT [L, R]	600 Ω	10 kΩ Lines	—	-10 dBV (316 mV)	+10 dBV (3.16 V)	RCAピン端子

*1 0 dBu = 0.775 Vrms, 0 dBV = 1 Vrmsとする
*2 アンバランス型フォーン端子

● 別売オプション

ラックマウントキット RK512

フットスイッチ FC5